



平成25年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成24年11月13日

上場取引所 東 名

上場会社名 大東紡織株式会社

コード番号 3202 URL <http://www.daitobo.co.jp/>

代表者 (役職名) 取締役社長

(氏名) 国広 伸夫

問合せ先責任者 (役職名) 経営管理本部経営企画部長

(氏名) 三枝 章吾

TEL 03-3665-7816

四半期報告書提出予定日 平成24年11月13日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成25年3月期第2四半期の連結業績(平成24年4月1日～平成24年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
25年3月期第2四半期	3,730	1.1	88	△16.8	△80	—	△95	—
24年3月期第2四半期	3,691	△11.5	106	△24.1	△71	—	△85	—

(注) 包括利益 25年3月期第2四半期 △95百万円 (—%) 24年3月期第2四半期 △51百万円 (—%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
25年3月期第2四半期	△3.18	—
24年3月期第2四半期	△2.86	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
25年3月期第2四半期	22,235	4,541	18.6
24年3月期	22,764	4,636	18.6

(参考) 自己資本 25年3月期第2四半期 4,127百万円 24年3月期 4,223百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
24年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00
25年3月期	—	0.00	—	—	—
25年3月期(予想)	—	—	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成25年3月期の連結業績予想(平成24年4月1日～平成25年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	8,620	6.4	550	41.4	200	253.7	170	440.4	5.68

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 有
新規 1社 (社名) 、 除外 1社 (社名) 寧波杉杉大東服装有限公司
(注) 詳細は、添付資料4ページ「2. サマリー情報(注記事項)」に関する事項(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動」をご参照下さい。

- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
② ①以外の会計方針の変更 : 無
③ 会計上の見積りの変更 : 有
④ 修正再表示 : 無

(注)「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」第10条の5に該当するものであります。詳細は、添付資料4ページ「2. サマリー情報(注記事項)」に関する事項(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示」をご参照下さい。

- (4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	25年3月期2Q	30,000,000 株	24年3月期	30,000,000 株
② 期末自己株式数	25年3月期2Q	64,362 株	24年3月期	64,035 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	25年3月期2Q	29,935,857 株	24年3月期2Q	29,936,941 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了しております。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

業績予想は本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づいたものであり、実際の業績は今後様々な要因によって予想数値と異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報	3
(3) 連結業績予想に関する定性的情報	4
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	4
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	4
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	4
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	4
3. 継続企業の前提に関する重要事象等の概要	5
4. 四半期連結財務諸表	6
(1) 四半期連結貸借対照表	6
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	8
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	10
(4) 継続企業の前提に関する注記	11
(5) セグメント情報等	11
(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	11

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、復興関連需要を背景に内需が底堅さを示し、個人消費も持ち直しつつあるものの、欧州や中国経済の減速によって輸出が弱含みとなったことなどから、全体としては横ばい圏内で推移した後、弱めの動きとなっております。

繊維・アパレル業界におきましては、夏場の猛暑で一時前年を上回る改善を見せたものの、夏物セール分散化で盛り上がりや欠いたことや記録的残暑による秋物の不振が響き、前年を若干割り込む展開となりました。

ショッピングセンター業界におきましては、猛暑と昨年自粛されたイベントの復活などから8月は前年を上回ったものの、夏物セールの分散化の影響に加え、家電量販店が引き続き不振であることや前年好調であった節電関連用品の反動減などもあり、全体としては伸び悩みました。

このような事業環境の中で、当社グループは引き続き「中期経営計画2010～KAIKAKU～」に基づき、中核事業である「提案型OEM事業」および「商業施設事業」に経営資源を投入し「事業構造の改革」を推進するとともに、一層のローコスト経営を徹底すべく「コスト構造の改革」にも継続して取り組みました。

売上高は、主として寝装品部門と不動産事業の好調を背景に前年同期を上回ったものの、損益面では紳士服販売子会社において、春夏物スーツの納品を前期から早めに進めていたことの反動減やクールビズ商品増加による粗利率の低下などにより、営業利益は前年同期を下回りました。

この結果、当第2四半期連結累計期間の業績は、売上高は37億30百万円(前年同期比1.1%増)と増加したものの、営業利益は88百万円(前年同期比16.8%減)、経常損失80百万円(前年同期は経常損失71百万円)となり、これに法人税、住民税及び事業税等を加減した結果、四半期純損失は95百万円(前年同期は四半期純損失85百万円)となりました。

セグメントの業績は次のとおりであります。

(繊維・アパレル事業)

衣料部門につきましては、メンズ衣料は主として紳士服販売子会社で春夏物スーツの納品を前期から早めに進めていたことの反動減により、売上高は前年同期を下回りました。レディース衣料は新規開拓・既存先強化に注力したものの、低採算取引先を絞り込んだ結果、売上高は前年同期を下回りました。

ユニフォーム部門につきましては、前年の震災による落ち込みに対する反動増に加え、官公庁ユニフォーム生地の前倒し納品や民間企業向けユニフォームの伸長があり、売上高は前年同期を上回りました。

寝装品部門につきましては、温熱治療器の大口受注があり、売上高は前年同期を上回りました。

この結果、繊維・アパレル事業の売上高は25億41百万円(前年同期比0.4%減)、営業損失は1億35百万円(前年同期は営業損失99百万円)となりました。

(不動産事業)

不動産事業につきましては、静岡県下有数の商業施設である「サントムーン柿田川」において、家電量販テナント等の不振はあったもののサービス・シネマ関係の集客が好調であったことや、一部ファッション雑貨関連テナントの売上が伸びたことなどもあり、売上高は前年同期を上回りました。

この結果、不動産事業の売上高は11億88百万円(前年同期比4.3%増)、営業利益は4億19百万円(前年同期比3.4%増)となりました。

- (注) 1. 上記のセグメントの業績に記載している営業利益は、セグメント間の内部取引を含んだ金額を記載しております。
2. 当社の消費税等に係る会計処理は、税抜方式によっているため、記載した金額には消費税等は含まれておりません。
3. 記載している見通し等将来についての事項は、本資料の発表日現在において判断したものであり、予測しえない経済環境の変化等様々な要因があるため、その結果について当社グループが保証するものではありません。

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

(資産、負債、純資産等の状況に関する分析)

① 資産

当第2四半期連結会計期間末における総資産の残高は222億35百万円(前期末は227億64百万円)となり、前期末に比べ5億28百万円減少(前期末比2.3%減)しました。主な要因は、現金及び預金の減少1億84百万円、受取手形及び売掛金の減少1億82百万円、建物及び構築物の減少1億87百万円です。

② 負債

当第2四半期連結会計期間末における負債の残高は176億94百万円(前期末は181億27百万円)となり、前期末に比べ4億32百万円減少(前期末比2.4%減)しました。主な要因は、支払手形及び買掛金の減少2億67百万円、短期借入金の増加17億43百万円、長期借入金の減少16億46百万円、長期預り保証金の減少69百万円です。

③ 純資産

当第2四半期連結会計期間末における少数株主持分を含めた純資産の残高は45億41百万円(前期末は46億36百万円)となり、前期末に比べ95百万円減少(前期末比2.1%減)しました。主な要因は、四半期純損失95百万円を計上したことです。

(キャッシュ・フローの状況)

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物は、営業活動によるキャッシュ・フローで2億31百万円のマイナス(前年同期は3億21百万円のマイナス)、投資活動によるキャッシュ・フローで9百万円のマイナス(前年同期は47百万円のマイナス)、財務活動によるキャッシュ・フローで54百万円のプラス(前年同期は1億82百万円のプラス)となりました。

これらの各活動に加え、為替相場の変動による現金及び現金同等物に係る換算差額1百万円のプラスを反映した結果、現金及び現金同等物の残高は7億52百万円(前年同期比23.8%増)となり、前期末に比べ1億84百万円減少しました。

当第2四半期における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりです。

① 営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動によるキャッシュ・フローは、2億31百万円のマイナス(前年同期は3億21百万円のマイナス)となりました。これは主に、売上債権の減少1億65百万円、たな卸資産の増加1億23百万円、仕入債務の減少2億69百万円によるものです。

② 投資活動によるキャッシュ・フロー

投資活動によるキャッシュ・フローは、9百万円のマイナス(前年同期は47百万円のマイナス)となりました。これは主に、有形及び無形固定資産の取得による支出7百万円によるものであります。

③ 財務活動によるキャッシュ・フロー

財務活動によるキャッシュ・フローは、54百万円のプラス(前年同期は1億82百万円のプラス)となりました。これは主に、短期借入金の純増加額5億円、長期借入れによる収入5億円、長期借入金の返済による支出9億3百万円によるものであります。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

業績予想につきましては、平成24年5月14日発表の予想数値に変更はありません。なお、業績予想は本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づいたものであり、実際の業績は今後様々な要因によって予想数値と異なる可能性があります。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

第1四半期連結会計期間から、寧波杉杉大東服装有限公司は寧波杉京服飾有限公司を存続会社とする吸収合併により解散したため連結の範囲から除外しております。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計方針の変更

(会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更)

当社及び国内連結子会社は、法人税法の改正に伴い、第1四半期連結会計期間から、平成24年4月1日以後に取得した有形固定資産については、改正後の法人税法に基づく減価償却の方法に変更しております。

なお、この変更による影響は軽微であります。

3. 継続企業の前提に関する重要事象等の概要

当社グループは、平成22年3月期(第190期)において、紳士服販売子会社の不振が損益面に強く影響を与えたこと等により、連続して営業損失および当期純損失を計上するとともに、「サントムーン柿田川」の第2期開発および第3期開発資金や紳士服販売子会社の赤字運転資金などの負担から、有利子負債額が高水準となっております。当該状況の改善については、相当程度進めているものの、その解消には至っておらず、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような状況が存在しております。

当社グループは、「スリム化を進め、利益率の高い企業体質へ転換する」ことを企図し、平成23年3月期(第191期)から「中期経営計画2010～KAIKAKU～」をスタートさせ、「事業構造の改革」と「コスト構造の改革」を柱とする諸施策への取り組みを進めております。この結果、平成23年3月期(第191期)は、初年度の目標として掲げた「連結営業損益の黒字化」と「有利子負債の圧縮」について達成するとともに、財務面・損益面の改善を進めました。

平成24年3月期(第192期)についても、引き続き中期経営計画に基づき、従来の低採算のOEM事業の規模を縮小し、より高採算の「提案型OEM事業」へのシフトを進めるなど事業構造の見直しを行い、本業である繊維・アパレル事業の営業損益改善を図りますとともに、静岡県下有数の商業施設である「サントムーン柿田川」に経営資源を投入し、不動産事業の営業損益の維持・向上を図っております。加えて、協力工場のアジアシフトによる売上原価の低減や販売管理費の削減を進めております。

当第2四半期連結累計期間における経営成績につきましては、上記「1. (1) 連結経営成績に関する定性的情報」に記載のとおり、紳士服販売子会社における春夏物スーツの納品を前期から早めに進めていたことの反動減に伴い前年同期と比較して下回ったものの、概ね当期の利益計画通り推移しております。一方、有利子負債額は103億37百万円(前期末は102億91百万円)と前期末比若干増加したものの、前年同期末106億95百万円に比べると減少しており「有利子負債の圧縮」も概ね計画通りに進捗しております。

当社グループといたしましては、当第2四半期におきましても中期経営計画に基づく諸施策を確実に実施しており、平成24年度通期では損益面・財務面ともに計画通り実現し、連結当期純損益の黒字化はもとより、「繊維事業部門の連結営業損益黒字化」を達成するとともに、引き続き余剰営業資金により「有利子負債の圧縮」を図る計画としており、継続企業の前提に関する重要な不確実性は認められないと判断しております。

4. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位: 千円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成24年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,527,833	1,343,033
受取手形及び売掛金	1,411,382	1,228,978
たな卸資産	794,466	919,449
その他	346,451	325,332
貸倒引当金	△9,452	△8,752
流動資産合計	4,070,681	3,808,040
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	8,073,461	7,886,072
土地	9,343,720	9,343,720
その他(純額)	480,907	424,833
有形固定資産合計	17,898,089	17,654,626
無形固定資産		
	73,565	73,370
投資その他の資産		
投資有価証券	298,030	292,162
破産更生債権等	130,954	130,675
その他	416,433	400,336
貸倒引当金	△123,512	△123,482
投資その他の資産合計	721,905	699,691
固定資産合計	18,693,560	18,427,687
資産合計	22,764,241	22,235,728

(単位: 千円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成24年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,321,512	1,053,565
短期借入金	2,126,516	3,869,848
未払法人税等	22,741	27,522
返品調整引当金	170,346	147,599
賞与引当金	28,572	30,885
その他	887,897	742,954
流動負債合計	4,557,585	5,872,374
固定負債		
社債	300,000	300,000
長期借入金	6,828,586	5,181,796
長期預り保証金	3,325,218	3,255,711
繰延税金負債	6,404	6,979
再評価に係る繰延税金負債	2,575,745	2,575,745
退職給付引当金	160,003	181,681
資産除去債務	60,674	55,159
その他	313,051	264,845
固定負債合計	13,569,682	11,821,917
負債合計	18,127,268	17,694,292
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,500,000	1,500,000
資本剰余金	503,375	503,375
利益剰余金	△2,336,588	△2,431,879
自己株式	△6,890	△6,910
株主資本合計	△340,103	△435,415
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△16,653	△23,980
繰延ヘッジ損益	81	△820
土地再評価差額金	4,628,571	4,628,571
為替換算調整勘定	△48,660	△40,819
その他の包括利益累計額合計	4,563,340	4,562,951
少数株主持分	413,736	413,900
純資産合計	4,636,973	4,541,436
負債純資産合計	22,764,241	22,235,728

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 四半期連結損益計算書
 第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)
売上高	3,691,721	3,730,507
売上原価	2,691,363	2,825,679
売上総利益	1,000,357	904,828
販売費及び一般管理費	893,595	815,974
営業利益	106,762	88,853
営業外収益		
受取利息	6,046	677
受取配当金	2,388	2,465
その他	3,136	6,791
営業外収益合計	11,571	9,935
営業外費用		
支払利息	168,723	160,791
その他	20,704	18,417
営業外費用合計	189,428	179,209
経常損失(△)	△71,094	△80,420
特別損失		
投資有価証券評価損	4,008	—
特別損失合計	4,008	—
税金等調整前四半期純損失(△)	△75,103	△80,420
法人税、住民税及び事業税	12,440	23,026
法人税等調整額	△479	△247
法人税等合計	11,960	22,778
少数株主損益調整前四半期純損失(△)	△87,063	△103,199
少数株主損失(△)	△1,437	△7,908
四半期純損失(△)	△85,626	△95,291

四半期連結包括利益計算書
第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)
少数株主損益調整前四半期純損失(△)	△87,063	△103,199
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	25,030	△7,327
繰延ヘッジ損益	△553	△902
為替換算調整勘定	10,898	15,912
その他の包括利益合計	35,374	7,682
四半期包括利益	△51,689	△95,516
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△56,016	△95,680
少数株主に係る四半期包括利益	4,327	163

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純損失(△)	△75,103	△80,420
減価償却費	278,565	275,574
貸倒引当金の増減額(△は減少)	15,631	△730
返品調整引当金の増減額(△は減少)	14,950	△22,747
賞与引当金の増減額(△は減少)	△607	2,312
退職給付引当金の増減額(△は減少)	17,831	21,677
受取利息及び受取配当金	△8,434	△3,143
支払利息	168,723	160,791
投資有価証券評価損益(△は益)	4,008	—
売上債権の増減額(△は増加)	△163,119	165,383
たな卸資産の増減額(△は増加)	△224,991	△123,193
仕入債務の増減額(△は減少)	1,650	△269,127
預り保証金の増減額(△は減少)	△80,924	△80,851
その他	△91,762	△97,619
小計	△143,584	△52,093
利息及び配当金の受取額	8,424	3,133
利息の支払額	△173,989	△164,191
法人税等の支払額	△12,268	△18,753
営業活動によるキャッシュ・フロー	△321,418	△231,905
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形及び無形固定資産の取得による支出	△6,955	△7,974
資産除去債務の履行による支出	△3,488	△794
投資有価証券の取得による支出	△598	△598
出資金の払込による支出	△36,759	—
その他	40	—
投資活動によるキャッシュ・フロー	△47,762	△9,368
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(△は減少)	920,500	500,000
長期借入れによる収入	968,643	500,000
長期借入金の返済による支出	△1,660,282	△903,458
リース債務の返済による支出	△40,647	△41,844
自己株式の純増減額(△は増加)	△45	△20
少数株主への配当金の支払額	△5,721	—
財務活動によるキャッシュ・フロー	182,445	54,677
現金及び現金同等物に係る換算差額	1,724	1,795
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△185,010	△184,800
現金及び現金同等物の期首残高	793,160	937,711
現金及び現金同等物の四半期末残高	608,150	752,910

(4) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(5) セグメント情報等

(セグメント情報)

I. 前第2四半期連結累計期間(自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	繊維・アパレル 事業	不動産事業	合計		
売上高					
外部顧客への売上高	2,551,471	1,140,249	3,691,721	—	3,691,721
セグメント間の内部売上高 又は振替高	146	961	1,107	△1,107	—
計	2,551,617	1,141,211	3,692,829	△1,107	3,691,721
セグメント利益又は損失(△)	△99,951	405,736	305,784	△199,022	106,762

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額△199,022千円は各報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は、報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II. 当第2四半期連結累計期間(自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	繊維・アパレル 事業	不動産事業	合計		
売上高					
外部顧客への売上高	2,541,575	1,188,932	3,730,507	—	3,730,507
セグメント間の内部売上高 又は振替高	54	607	662	△662	—
計	2,541,630	1,189,539	3,731,170	△662	3,730,507
セグメント利益又は損失(△)	△135,851	419,354	283,502	△194,649	88,853

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額△194,649千円は各報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は、報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。